

論田・熊無インターンシップ

相模女子大学

2023年8月25日から8月30日まで、富山県氷見市の論田・熊無地区での農業インターンシップに東京農業大学と相模女子大学の学生が参加しました。この期間を通じて、多くの貴重な経験をしました。

論田・熊無地区に着いて、地元の皆さんとの自己紹介から始まりました。初対面の人々との交流は緊張もありましたが、すぐに打ち解け、地域の人の暖かさに触れることができました。

インターンシップ活動では、方言の学習や草餅づくり、草刈り作業などを通じて、地域の文化や伝統を体験し、地域の人々との絆を深めました。

稲刈りや収穫体験、籐箕作りなど、農業に関するさまざまな活動に参加しました。初めての経験ばかりでしたが、指導をしてくれる地元の方々の協力のおかげで、新しいスキルを習得することができました。



最終日には、アイデアワークショップが行われ、ろんくまのこれからについて農学と観光学の視点からアイデアを共有しました。異なる視点からの意見は刺激的で、互いに多くの学びがありました。

最後に、地元の方々から伝統の獅子舞踊りでお見送りしていただきました。



このインターンシップは、新しい経験と貴重な交流を通じて、私たちにとってかけがえのない宝物となりました。地域の人々との絆を築き、地域の文化に触れる機会を持てたことに感謝しています。

本当に楽しい6日間をありがとうございました。



ろんくまインターンシップ

東京農業大学

方言講習

方言講習で行った論熊方言かるたでは、農業に関する言葉の方言の札を取れて嬉しかったです。最初は方言で聞き取りにくかった地元の方のお話も、この講習のおかげで最終日にはほぼ聞き取れるようになりました。

草餅

ヨモギ摘みと草餅づくりを体験しました。ヨモギ摘みでは一つずつ手作業で新芽の部分を摘んでから、溜めた水の中で汚れなどを落としました。この時期に取れたヨモギは煮てから冷凍して保存しておくそうです。草餅づくりでは、食べた時に一口目であんこが真ん中にくるようにするのが難しかったです。出来立てのヨモギの草餅は柔らかく今までで一番おいしい草餅でした。新芽が一番柔らかい春先にも食べてみたいです。



稲刈り

前日の夜に大雨が降った影響で田んぼがぬかるんで足を取られながら稲の手刈りを行いました。藁を腰に固定し、稲束を結うなど慣れない作業で苦戦することもありましたが、地域の方が優しく教えてくださり、また仲間同士でも声を掛け合って無事に“はさ掛け”まで終えることができました！今年初めての稲刈りでした。休憩の時に食べたスイカの味は格別でした。

ネクタリン・イチジク収穫

圃場見学後、畝の落ち葉の掃除や収穫体験をしました。果樹栽培におけるノウハウや灌水システムはとて興味深く勉強になりました。イチジクは追熟しないので、完熟の状態で収穫しました。収穫したネクタリンやイチジクはとて甘くおいしかったです。



草刈り

様々な種類の草刈り機を体験させていただいたとき、小さな棚田が連続している論熊では比較的小さく、手軽なものが多いと気づきました。また若手が少ないと聞いていたので、機械などがあまり普及していないのかなと思っていましたが、自走式の草刈り機や畔を刈る法面式の草刈り機があるなど、かなり充実していて初見の私達でも扱えるようなものが多く、楽しかったです！



藤箕（国の重要無形民俗文化財）

最近では原価が安く大量生産できるプラスチック製の箕が主流になっているので、藤から作った箕は初めて見ました。また藤箕の材料として、竹だけでなく、紫色の花を咲かせる藤という植物の枝を使っていることも初めて知りました。竹と藤はそれぞれ箕の側面や強度を保ちたい部分など、編む場所によって使い分けがされていました。とても時間がかかるし、繊細な作業だということを自分たちが編むことで実感しました。自分たちが作った藤箕は現在部活で使用しています。自分の身近な人にも藤箕という文化を伝えることができました！



竹林整備

竹林整備では、のこぎりで竹を切り、それをチップパーで粉砕する作業を行いました。竹林は涼しく過ごしやすい気温でした。機械や刃物を扱っていたので声掛けを心掛けながら安全に気を付けて作業に取り組みました。

ペピーノ

現在、論田・熊無地区ブランド化に向けて力を入れているペピーノ栽培の最前線を見学し、東京農業大学の高畑教授のお話を聞き意見交換を行いました。ペピーノはメロンのような風味がする果物で加熱加工に向いているそうです。ブランドに向けて頑張ってください！



意見交換

相模女子大の学生とオープンエンドという方法で意見交換を行いました。お互い大学の専門分野の違いからたくさんの意見を出すことができました。実際の意見として、空き家を改装して宿泊施設をつくる案や学生向けのサマーキャンプを開く案、草餅の保存期間を延ばして県外でもおいしく食べられるようにする案など…少子化が進んでいる地域であるため、自分たちのような若い世代に興味を持ってもらいたい！という意見が多かったです。

また、勉強不足ではありますが、多様な植生と山間部という地形を生かした養蜂への挑戦、地域特有のブランド的な作物の発展などの意見も出させてもらいました。

6日間を通して

“美味しいごはん、論田・熊無地域の方々の優しさや大自然と触れ合い、ろんくまの大ファンになりました！また行きたいです！！”

“上記に挙げた内容以外でも獅子舞の文化やろんくまの伝承料理、日々の生活での出来事や今何に困っているかなどたくさんの方とお話して、たくさん考えるきっかけにもなりました。言葉にしきれない魅力を自分からも発信していけたらと思っています。次回はもっと汗水垂らして作業をして、皆さんとみんなと獅子舞を見に行きたいです！”

“6日間あっという間に感じられるほど、今後役に立つような経験を積むことができました。ろんくまの皆さんには、温かく接していただき、感謝しております！また、ぜひ訪れたいです！”

“今回はたいへん貴重な機会をいただきありがとうございます。論田・熊無地区の方々にとってもよくしてくださり、地域のあたたかさを感じることができ良い経験を積めました。”

“富山県に訪れるのが初めてで、様々な天気を楽しむことができ、嬉しかったです。また、来年もぜひ訪れたいです！ありがとうございます！”

“六日間という長期のインターンシップで、ろんくまの皆さんとともに農作業や地域の活動にかかわり、とても勉強になりました。”

